

いろいろな虫で試して

アポロサイエンス
セイタ先生

今回のテーマ
昆虫 上

ワクトキ実験室

5

ひょうほん つく 標本を作ろう!

皆さん、夏休み楽しんでますか? 昆虫たちの季節がやってきました!! さなぎから成虫へと羽化したカブトムシやクワガタが、元気に虫かごの中を歩き回っているはず!! 今月は飼育して寿命を迎えたカブトムシの標本作りを解説します☆

標本作りの様子は動画で見られるよ☆☆☆↓



① 汚れ落とし・殺菌



使うもの 死んだカブトムシ、洗面器、やわらかい歯ブラシ、エタノール、コップ、割り箸、タッパー、乾燥材、まち針、お湯、発泡スチロール板、プラスチックケース、両面テープ、セロハンテープ

飼育して寿命を迎えたカブトムシ。体に雑菌が付いているため、水を張った洗面器の中で、歯ブラシを使い、丁寧に優しく汚れを落とします。



コップにエタノールを入れ、死んだカブトムシを30分ほど漬けます。この時浮き上がらないように、割り箸などで抑えます。(死んだ後は腐敗が始まるため、エタノールで腐敗処理をします)

② 乾燥

30分たったら、カブトムシが入るサイズのタッパーに乾燥材と一緒に入れ、冷蔵庫で約1週間乾燥させます。(風通しのよい日陰

で乾燥させることも可能ですが、沖縄は高温多湿なのでカビが生えたり、腐敗したりする可能性があります)

③ 軟化・展足・乾燥

生きているかのように標本にするために、針で形を整えます。乾燥によってカブトムシの関節が固まっていたら、50~60度のお湯に30分ほど漬けておくと、関節が柔らかくなります。



水気を軽く拭いた後、右の羽の部分に針を刺し、発泡スチロール板に固定します。(カブトムシやクワガタなどの大型昆虫の場合、羽が硬くてうまく刺せない場合があります。その時はプラモデル用の極細ドリルで1度穴を開けてから、針を刺すと上手にできます)



足を針2本で挟むように固定し形を整えます。この時左右対称になるように注意しながら、足を固定しよう。上級者の場合は、触角、クワガタの大あごも、針で整えてみよう!

乾燥材を入れたタッパーで乾燥させるか、風通しのよい場所で2週間ほど乾かします。

④ 保存

透明なプラスチックケースの底に、両面テープで発泡スチロール板を貼り付けます。乾燥が終わったカブトムシの回りがある針を1本ずつゆっくり引き抜きます。次に、カブトムシの羽の部分に刺してあった針をゆっくりと引き抜い

て、プラスチックケースの中央に刺し直して固定します。昆虫標本は密閉しなければいけないので、ふたを被せてセロハンテープで巻いて密閉します。これで完成です。



☆上級者は昆虫の名前や、採集地、採集日、採集者の名前を記入したラベルを作って、標本箱内にはろう☆

※昆虫標本はとても繊細なので、振ったり、落としたりすると壊れてしまいます。

チェック!

★セイタ先生が持っている標本を展示する「マニアックな世界の昆虫展」が19~26日、那覇市のジュンク堂書店那覇店で開かれます。入場料は100円(5歳以下は無料)。24、25日午後2時からセイタ先生が昆虫の解説をします。昆虫食の試食もあるんだって。みんな足を運んでね☆

☆予告☆ 次回は昆虫の驚くべき生態について紹介するよ(9月15日掲載)